

(様式第6号 別紙)

長崎県福祉サービス第三評価結果報告

① 第三者評価機関名

有限会社 医療福祉評価センター

② 事業者情報

名称：社会福祉法人 南高愛隣会 TERRACE やまびこ	種別：生活介護
代表者氏名：佐竹 真	定員(利用人数)： 20 名
所在地： 諫早市福田町 357-15	TEL：0957-56-8540

*施設・事業所情報は、事業所プロフィール参照

③ 施設・事業所の特徴的な取組

当事業所は、強度行動障害の方が多く利用をしており、他事業所では受け入れが難しい方も相談に来るケースがある。地域の受け皿として、可能な限り受け入れを行っている。個人ごとに、様々な特性があり、職員は日々支援に奮闘はしているが、チーム構成もよく、お互いに成功体験を共有しながら切磋琢磨している。

事業所では日中の過ごし方として、3つのグループに利用者を分けている。「ルーム1」では他の利用者と過ごすことが可能な方を対象とし、集団での室内活動ができる環境を整えている。「ルーム2.3」は、4つの個室があり、他者との距離感が必要な方や、感覚過敏がある方が対象となる。個室で過ごす際には、職員が見守りを行い、安全に配慮した支援を提供。「活動所」は別棟として整備されたフロアで、1日の利用者人数は最大8名を想定。より強度の高い行動障害のある方を対象とし、フロア内にて一人で過ごせる専用の空間を確保。一人ひとりに合わせた個別支援が行えるよう、環境と体制を整えている。

TERRACE やまびこは、かつて近隣で馬を飼育していたことから、馬の事業の象徴とし、馬と共に歩んできた。しかし現在は、馬が雲仙市へ移動したため、今後は法人の中心的事業所として、他の生活介護事業所をけん引する役割が求められる。その為地域の中でリーダーシップを発揮し、社会とのつながりを強めていく事業所へ成長していくことが期待される。

④ 第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和 7 年 6 月 2 日 (契約日) ～ 令和 8 年 2 月 13 日 (評価結果確定日)
受審回数	2 回目 (前回：平成 28 年度)

⑤総評

◇特に評価の高い点

【利用者のグループ分け】

TERRACE やまびこでは日中の過ごし方として、3つのグループに利用者を分けている。「ルーム1」では他の利用者と過ごすことが可能な方を対象とし、集団での室内活動ができる環境を整えている。「ルーム2.3」は、4つの個室があり、他者との距離感が必要な方や、感覚過敏がある方が対象となる。個室で過ごす際には、職員が見守りを行い、安全に配慮した支援を提供。「活動所」は別棟として整備されたフロアで、1日の利用者人数は最大8名を想定。より強度の高い行動障害のある方を対象とし、フロア内にて一人で過ごせる専用の空間を確保。一人ひとりに合わせた個別支援が行えるよう、環境と体制を整えている。3つのグループに分けることにより、利用者が安心して日中を過ごすことへつながっている。

【コミュニケーションツールについて】

事業所内見学をした際、部屋の壁などに絵カードを掲示されており、コミュニケーションツールとして活用されていた。言語理解が苦手な利用者に対して絵カードを用いることで、意思疎通が図りやすくなり、利用者の安心にもつながっている。

【画一された研修体系】

法人として研修体系がしっかりとしている。定期採用の新任・中途採用プログラム（3か年プログラム）、中途採用の新任・中途採用プログラム（3か年プログラム）、に加え、福祉一般職のスキルマップ、役職者5か年計画のスキルマップも作成している。研修体系が整備されていることで、個々人が受講する研修の把握と、目指す方向の把握ができるようになっている。

◇改善を求められる点

【事業計画の周知について】

法人で事業計画が策定され、保護者が会員となっている育成会の中で、事業計画についての話に触れることはあるが、育成会の参加が任意であるため、すべての保護者に事業計画の周知はできていない。事業計画は行事計画等についても利用者の参加を促す効果もある。今後、利用者や保護者へ事業計画の中でも利用者に関わることだけでも説明をすることを期待する。

【不審者対応の訓練について】

・法人として、防犯マニュアルを整備している。グループホームでは、不審者対応の訓練を実施しているが、生活介護では訓練の実施はしていないとのことである。不審者は、いつどこから侵入してくるかわからないため、今後生活介護も訓練を実施することを期待する。

⑥第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

当事業所は、強度行動障害のある方の利用が多く、他事業所では受け入れが難しいケースにも積極的に対応している点が大きな特徴である。地域の受け皿として可能な限り受け入れを行うことで、福祉資源としての社会的役割を今後も担っていきたい。利用者一人ひとりが抱える特性や支援ニーズは多様であるが、職員は日々の支援を通して課題解決に取り組み、チームとして成功体験を共有しながら質の向上に努めている点は継続していききたい。

事業所内の環境整備については、利用者の特性に応じて「ルーム1」「ルーム2・3」「活動所」の3つの構成を設けており、集団・個別・強度行動障害の各ニーズに応じた柔軟な支援体制が構築。特性に応じた個別支援が実施している点は、リスク管理と利用者の尊厳の両輪で取り組みたい。

また、TERRACE やまびこは、従来の馬との関わりを象徴とした事業所から、今後は法人の中心的な拠点として、地域や他事業所をけん引する役割が期待されている。馬が雲仙市へ移動した現在も、地域に開かれた事業所づくりや、他機関と協働できる体制の構築が求められる中、本事業所が地域福祉の中心的存在へと成長しようとする姿勢が重要と考える。

総じて、強度行動障害を抱える方への専門性の高い支援と、地域の中での役割発揮に向けた取り組みをバランスよく進めることにより、今後も地域に不可欠な支援拠点としてさらなる発展をしていきたい。

⑦第三者評価結果

別紙の「第三者評価結果」に記載している事項について公表する。

⑧利用者調査及び書面調査の概要

(別紙)